

西表島を彩る植物たち

— 3年間にわたる植物相研究の成果報告 —

「東洋のガラパゴス」とも呼ばれる西表島の多彩で貴重な生態系は、島の約9割を覆う自然林によって保たれています。しかし、「島のどこで、どんな植物が、どのように生育しているか」はよく分かっていませんでした。そこで琉球大学と沖縄美ら島財団は協力して、西表島の全域で植物を対象とした現地調査と研究を続けてきました。この公開講演会では、植物の**分布、多様性、生活史、希少性**に着目した研究の3年間の成果を紹介します。西表島を彩る植物たちの今の姿を、どうぞご覧ください。

1. 「西表島のどこにどんな植物が分布するのか？」 内貴 章世（琉球大学）

「植物相」とは、「その地域のどこにどんな植物が生きているのか」を明らかにしたもので、地域の自然を知るための一番基礎的かつ重要な情報です。しかし、西表島にはこの情報がほとんどないため、私たちは植物相の研究プロジェクトを立ち上げ、進めてきました。はじめにプロジェクトの概要を説明し、石灰岩地の植物をはじめとして分布が特徴的ないくつかの植物について紹介します。また、今後この研究を継続し、その結果を用いて明らかにしようと考えていることをいくつか説明します。



2. 「3年間の調査から見てきた西表島の植物の多様性」 設楽 拓人（琉球大学）

本発表では、西表島内で植物種が多く生育している場所、すなわち、「植物の種の多様性が高い地域がどこなのか」について紹介します。島内の植物の種多様性を知ることは、島の自然生態系の豊かさを科学的に評価したり、植物の保全地域を特定したりする際にとっても重要です。具体的な調査方法は、島の東西南北1km²ごとに100×5mの調査区を設置し、調査区内に生育している全ての植物種の記録を行いました。約3年間、120ヶ所以上で調査した結果、どこで植物の種多様性が高いのかなど、様々なことが明らかになってきました。その成果を豊富な写真とともに紹介します。



3. 「西表島の植物はいつ咲いて、いつ実をつけるのか」 遠山 弘法（国立環境研究所）

西表島の植物はいつ咲いて、いつ実をつけているのでしょうか？西表と同じ亜熱帯地域での先行研究を調べてみると結果は様々です。雨量の多い月に花が咲き年間を通して果実を生産するという研究事例もあれば、年間を通して花や実をつけるという研究事例もあります。本研究では、一つの事例研究として西表島の亜熱帯植物群集の開花・結実の時期を明らかにすることを目的とし、琉球大学西表研究施設の周辺で観察されるすべての種（ca. 350種）の開花・結実を10日に一度記録しました。本発表では、全体的なパターンの紹介を行い、今後の研究の方向性について議論したいと考えています。



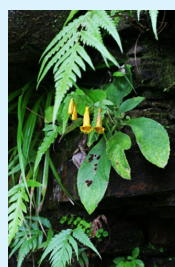
4. 「西表島に生きる希少な植物たち」 阿部 篤志（沖縄美ら島財団）

西表島に自生する維管束植物955種（初島・天野, 1994）のうち、約3割にあたる276種が絶滅の危機に瀕しています（沖縄県, 2018）。その減少要因は、森林伐採、道路工事等の開発、盗掘、里地の利用転換や管理放棄など人間活動が関与している他、植生遷移の進行、自然災害、外来種の影響など様々です。また、小島嶼という環境で、もともと希少な種が多いことも特徴の一つです。

これら希少植物は、現状不明種や未調査種があること、絶滅または減少傾向にある種の保護・保全対策が不十分であることなど課題があります。本発表では、これまでに調査した西表島の希少植物の現状について紹介します。



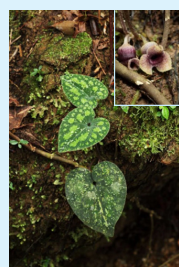
ナリヤラン



マツムラソウ



タシロマメ



モノドラカンアオイ